



絆の大切さ

1等海曹 木村 健司

広報官として勤務し1年が経とうとしています。この間、苦悩の連続もあり志半ばで心が折れてしまいましたが、「広報官としていて良かったな」と思えるときもありました。今回は、その広報官をして良かったなと思ったエピソードについて紹介したいと思います。

5月末に、埼玉地本では令和2年度最優秀地域事務所、最優秀広報官及び最優秀新人広報官表彰が行われました。その中で、私は優秀新人広報官に選ばれ、その事を埼玉地方協力本部のツイッターを通じて紹介されたところ、自分の携帯電話に一通の祝いメールが届きました。

メールの差出人は、私が担当した本年度航空自衛隊（女子）入隊者からであり、その内容は「優秀新人賞おめでとうございます。私も大変なこともあります。私への祝いと近況報告でした。入隊して2か月が過ぎ教育も後半戦で大変な時期の中、SNSを見て連絡をしてくれたその言葉に、表彰以上に喜びを感じました。

私自身も表彰を受けたとは言え、1年間は本当に結果と苦悩の戦いでしたが、その苦労を全て打ち消すが如く、入隊者からのメールは心に響き、「より多くの入隊者を獲得するぞー」という気持ちになりました。

入隊者も教育で苦勞し、頑張っている。私も先輩自衛官としてそれ以上に頑張らなければいけません。

広報官とは、志願してから入隊までの約半年間その人の人生に関わる仕事のため、今後も絆を深め、入隊後もお互いに声を掛け合える関係を築けるよう、職務遂行していきたいと思えます。

埼玉地本優秀新人広報官に、入隊者からも祝いの声

埼玉地方協力本部（本部長 山下1空佐）は、令和3年5月25日（火）に令和2年度優秀地域事務所および優秀隊員の表彰式を実施した。

この模様をツイッターに投稿したところ、優秀新人賞を受賞した木村1曹の携帯に入隊者からも祝いのメールが寄せられた。

「優秀新人賞おめでとうございます。入隊して大変なこともあります。私への祝いと近況報告です。」（今年度航空自衛隊入隊の女性隊員）

木村1曹は、「入隊して2か月が過ぎ教育も後半戦で大変な時期の中、ツイッターを見て連絡をしてくれ

たその言葉に、表彰以上に喜びを感じました。私自身も表彰

を受けたとは言え、1年間は本当に結果

と苦悩の戦いでしたが、その苦労を全て

打ち消すが如く、入隊者からのメールは

心に響き、より多くの入隊者を獲得する

ぞー」という気持ちになりました。」と語り決意を新たにしました。

様子だった。

